

早苗!!

一学期の中心行事である修学旅行・校外学習も好天のうちに無事終了しました。各学年でその目標を達成し一学期後半の学校生活にいかせればと祈っております。

六月は雨の季節である。梅雨時のじめじめとした感触は、何とも不快なものであり、夏の青空を待ち望む気持ちになるが、視点を変えると全ての物を育てる雨(水)が大地を潤し生命を育てていく季節とも考えられる。水の張られた田の水面に稲の緑がまぶしく輝く光景を見ると、何か心躍らせるものを感じるのではないのでしょうか。

六月の季語に「早苗」という言葉がある。「早」は早い・若いという意味をもちます。苗代で育てられた田に植えられる前の幼い苗のことである。

稲の苗は苗代で田植えに適するまで一ヶ月半ほど育てられ、十分に成長のエネルギーをその内に充満していく。そして、すくすくと緑に成長した稲は更に広い場所に成長の場所を変え、収穫に至るまでの新しい歩み始めることとなる。早苗の姿を見ていると、この時期は中学生時代と似ているように感じます。早苗と



いう義務教育を卒業して、広い場所である田という社会で自信の成長を図っていく、というように生徒の姿と重なって見えてきます。苗代という学校で、生徒の将来をも見据えて、社会に出て必要となるであろう力をしっかりと身につけさせるために、一人一人の生徒を大切に育てる。やがて生徒一人一人が広い社会の中で黄金に輝く稲穂をつけられるように、一学期半ばにあたるこの時期は、一本一本にたっぷりと水を与えなければいけない時。その点から、今一度それぞれの先生が教育活動を振り返ってみる時でもあります。梅雨の季節、このじめじめ感に負けないように一学期も乗り越えたいと思います。

生徒はすくすくと緑に育つ早苗である!!



たつの市立新宮中学校
校長 芝崎 幸成

